

Y06b Planetary Defense Conference (PDC) の国内開催に向けて

奥村真一郎 (日本スペースガード協会), 吉川 真 (JAXA), 渡部潤一 (国立天文台), 浦川聖太郎, 浅見敦夫 (日本スペースガード協会), 井本 昭 (日本惑星協会)

通算で7回目、IAA (International Academy of Astronautics) が主催となってから5回目となる Planetary Defense Conference (PDC) が、来たる2017年5月15-19日に日本科学未来館で開催される。PDCは地球に衝突する可能性のある天体についての観測や衝突回避の方法、衝突の影響・災害への対応など、天体の地球衝突の脅威に関連する幅広い分野について議論が交わされる国際会議であり、アジアでの開催は今回が初めてとなる。IAAが公開している英語版ウェブサイト (<http://pdc.iaaweb.org/>) に加え、国内開催に向けてわれわれは日本語版の案内を日本惑星協会のウェブサイト開設した (<http://planetary.jp/PDC/index.html>)。

会合では研究発表のセッションだけではなく、地球に衝突する恐れのある天体の実例として架空の小惑星「2017 PDC」を想定し (<http://neo.jpl.nasa.gov/pdc17/>)、その対策について議論する演習 (exercise) を実施する。この仮想小惑星は2017年3月6日に発見され、2027年7月21日に地球に最接近するというものである。その後の追跡観測により最接近時の地球への衝突確率が徐々に上がり、PDCの会合初日には1%にまで達するというシナリオが想定されている。このシナリオに基づき日本付近への衝突の可能性とその対応を検討する。

この会合は天体の地球衝突問題について広く知ってもらう良い機会なので、研究者に限らず多くの方に関心を持ってもらうために日本語でのパブリックイベントを会期中に開催することを検討している。また、PDCに先駆けて「天体の地球衝突問題にどう取り組むか」と題するシンポジウムを2月27, 28日に一橋大学一橋講堂で開催し、関連する分野の研究者間でまずは国内での議論を進める。このシンポジウムについても簡単に報告する。